

# NPO Kyoken 通信 117号

発行日 平成27年1月30日 / 発行者 特定非営利活動法人 教育研究所

## 本部（横浜事務所）

〒233-0013 横浜市港南区丸山台 2-26-20  
TEL : 045-848-3761 / FAX : 045-848-3742  
E-mail : contact@kyoken.org  
URL : http://kyoken.org/

宇奈月自立塾  
〒938-0282 黒部市宇奈月温泉 5509-16  
TEL : 0765-62-9681 / FAX : 0765-62-1120

にいかわ若者サポートステーション  
〒938-0037 黒部市新牧野 103 ファーストビル 3F  
TEL : 0765-57-2446 / FAX : 0765-57-2447  
E-mail : contact@nsapo.org  
URL : http://nsapo.org/

## 新年明けましておめでとうございます

今年も皆さま方にとって良い年になるようにお祈りするとともに、私達 NPO 職員は、皆さま方に出来る範囲の支援を行い、よい年にしたいと思っております。

どうぞ、よろしく願い申し上げます。

平成27年は、国によるひきこもりへの大改革の支援が始まる年です。この支援によって、我が国の福祉や労働行政が大きく変わり、同時に学校教育、特に受験教育が変わる変革の年になります。

国民として、市民として、また親として、市民主義に立った、自分達でやれることはやるという積極的参加への時代の変化です。官から民への動きを十分に理解し、一緒に進んでいきましょう。私達の生き方も問われる時代になります。市民民主主義の時代です。

チャンスです、チェンジの年です。

## 11月、カナダ・バンクーバーを訪問した時、

### 州政府のカウンセラーの方から嬉しい便りが来ました。

先生が生徒さんたちを連れてカナダにいらした際は、みんなとの楽しい時間と、先生との刺激的な会話に、沢山のインスピレーションとアイデアを頂きました。あれからも、よく、先生と生徒さん達にお聞きした話を思い出し、色々と考えさせられています。

社会的な角度からアプローチする、牟田先生のひきこもり分析は、私の社会観や倫理観にかっちりと繋がるものばかりだったので、こんなに素晴らしい先生が日本で活躍していらっしゃるなら、このような先生の活動に刺激を受けながら成長できるのであれば、私も日本でがんばってみる価値があるかもしれないという小さな希望が生まれました。

実は先生にお会いするまでは、日本に帰ってから私が私らしくやっていけるのかどうか、自分が社会の役に立てる居場所を造ることができるのかどうか、とても不安だったので、帰国を控えたこのタイミングで、先生のような存在に出会えた事は、私個人にとっても、とても大きな意味がありました。

## 今後の若者の自立支援の在り方と支援団体はなにをすべきか (2)

NPO 法人教育研究所 理事長・教育コンサルタント 牟田武生

### 本人及び家族に求められるもの

#### 「〇〇しかできない」から「〇〇ならできる」へ

今の若者は、自ら考え問題解決を図る自主性や自発性、そして創造力が若者に不足しているという指摘があるが、これは若者に問題があるのではない。

戦後、戦前の反動としての民主主義社会の実現と平和国家をめざし、戦後教育を受けた大学生を中心に60年、70年に起こした平和・平等に対する当時の政府の考えや公害企業等に対する意義申し立てとして、安保闘争やベトナム戦争、原子力発電所建設に反対する平和と公害防止運動を行った。

既存社会に対する異議申し立てである。しかし、それらの異議申し立ては当時に政権に届かず、一部の学生運動家は、やがて、過激派にかわり、市民意識とはかけ離れたものになっていった。

子どもの数と進学率の増加に対処すべく、1979年から始まった大学共通第一次学力試験、1990年からは、大学入試センター試験と移行し、暗記詰め込み試験は、偏差値教育の浸透とともに変化し、自ら考える学生は減少させていった。

これが異議申し立てする学生より従順な学生を「よし」とした風潮があった。さらに、世界のトップ企業に「追いつけ！ 追い越せ！」と、産業面において二流国から一流国へ階段を上る高度経済成長を支えるエンジンになり、有効な手立てでもあったが、いざ、世界のトップレベルにのぼりつめると、もう、まねごとだけでは、成長できず、新たな発想や創造力が求められるようになった。

今までの教育のあり方では優秀な人材は育たないと経営者団体からいわれ始め、6年後には、大学入試のあり方が、知識詰め込みから、自ら考え、問題解決能力を試される時代になっていく。

自主性・主体性を要求される時代になる。

国の1,000兆円を超える借金、そのためには、政府（官）をできる限り小さくして無駄を省き、民がやれるものは、民が行うプライバタイゼーション（※1）が進む、また、小さな民主主義の実現として、市町に権限を出来る限り委譲し、市民意識（シチズンシップ）を育て、これも、非営利団体に移譲することが進んでいくだろう。

その時、必要な知識や知恵が自主性・主体性の思考になる。これは他人に頼らず、自分達で出来ることはできることはやる、障害など抱え、出来ない人は、皆で抱え持つ、インクルージョンの世界を実現し、皆が、住みやすく、暮らしやすい身近な民主主義を実現していこうとするものである。

そのために求められるのが、厚生労働省援護局の荒川英雄は自立の定義の中で、主体的・自己決定的に生きる、自由な地域社会での生活、自己実現の追求などだ。

その対応は「〇〇しかできない」ではなく、「〇〇ならできる」で、住民参加と行政との協働で対応しよう」という。まさに、この言葉は時代の象徴だと思う。

※1 プライバタイゼーション：国営・公営企業などの民営化

# 具体的には当事者・家族はなにをしたらよいか

## 発想や考え方の転換 合言葉は チェンジ

平成 27 年 4 月からはじまる「生活困窮者自立支援法」。

ひきこもりもその予備軍になり支援の対象者になる。しかし、待ちの姿勢や「〇〇しかできない」という考え方だと、支援を受けにくい。あくまでも、「〇〇ならできる」という積極的な市民参加型でない支援を受けられない。

従来からあった、自立に向けての労働支援としてのひきこもりの相談・生活支援、そして、ビジネスマナーや就労体験をとおして労働観の熟成、そして就労・自立というシステムはかわらない。しかし、ひきこもりが長く、認知のズレなどの二次症状があったり、診断名を受けていないが発達障害ではないかと疑われる者、精神疾患・知的障害等のボーダーラインのある者が、いきなり、就労や雇用に結びつかなかった。これらの者は従来、支援の輪の中から外れていた。

そのような、ひきこもりの者を、この法律では、福祉的な立場からの支援策として、中間的就労や親の会が運営する居場所事業に結びつけ支援が届くようにする。そのために、まずは、利益を目的としない福祉的発想の中間的支援施設で就労してもらい、働く自信をつけ、徐々に社会的適応をめざしていく。そして希望すれば、一般就労に移行し、職業的自立を支援していくものである。これは、ひきこもり支援としての就労支援の前に、必要に応じて福祉的な支援を行うという新たな発想が法になった。

それでも、子どもや若者が動けなければ、親が動き、親の会を作り、親としての相互支援を専門家のもとに行い、行政の支援の輪の中に入れてもらうものである。なぜ、こんな面倒くさいことをするかというと、支援事業者の利益のための事業としてみなされ、排除しようとする経済団体や政党があり、事業仕分けに結びついた過去がある。

そこで、当事者と保護者など、困難を抱えている人々は、政治的に排除できない。自立支援事業者はそのノウハウや専門性をいかして、親の会を支援していくものになる。さらには、福祉的支援を終わった者に対して、就労支援を自立支援施設が、従来通り行うものになる。

さらに、長期化、高年化したひきこもりや様々な困難を抱えた重篤の者にとって、宿泊型（集中型訓練）による支援は非常に有効なアイテムになる。

## 支援者及び支援団体に求められるもの

ひきこもりの若者や職業的に自立できない人を支援するスタッフを自立支援員と呼んでいる。しかし、社会的には、まだ認知されていない極めて新しい職業である。

カウンセラーのように悩みや相談にのったり、ケースワーカーのように個々のケースに寄り添いながら具体的にサポートするだけでない。また、ハローワークの職員のように職業を紹介するだけにとまらない。さらに、ジョブコーチのように職場までついていき仕事に定着するまでサポートするだけではない。これらの仕事を全てこなし、昼夜逆転や食事時間の改善、自分の身の回り世話ができるようにする等の生活訓練の指導+社会人として必要なマナー研修をする能力や各種の検査や分析能力も要求される極めて高度な職業である。

勿論、専門バカになる必要はないが、広範な知識が求められ、臨床現場で精神的におかしいと思えた時、どのような専門家につながればよいか、分かる人でないとだめである。さらに、相談者に寄り添い親

身になって、一緒に問題を解決しようとするマインドが一番必要なことである。

しかし、実際、求人をしてみると「自分は落ちこぼれでした。でも、知的に低い人や常識がない人なら指導できます」あるいは、「ヤンキーや不良を、自分はさんざんやっていた、だから、彼らや彼女らの気持ちはわかります」といって応募してくる人も多い。また、「大学院でアンビバンレツの研究をして論文を書きました」というから「具体的には、どういうことですか」「貴方はそういう感情をどう思いますか」と質問すると、答えられない。論文を見せてもらおうと、コピーで出来上がっている。理化学研究所で起きたことが、今、日本中で、日常茶飯事で起こっていると思うとがっかりする。

これらのことは、ひきこもりを正確に理解しないで報道するマスコミによって、世間ではひきこもりやニートの人は能力が低く、常識が足りない、怠け者とみる偏見誤解が世の中に報道されていることからくる。このような事実には唖然としてしまう。偏見は差別を生むことが理解できていない。

すべてのことに対応することは、心理相談者やキャリアカウンセラー、精神科の医師などさえ専門家にはできないが、考えてみれば、多くの親たちは皆、愛情を土台に普通にやっていることである。

その他、時代に対する認識力、サポートするための具体的な専門知識、正しく情報を処理する能力、行政言葉を認識把握する能力等が最低必要とされる。

また、税金を使う以上、対費用効果を含め、わかりやすく説明するコミュニケーション能力も問われることは当然のことである。

そのためには素直に学び、真摯に臨床を行い、仲間同士研鑽を行い、さらに学び、その学びを、困難を抱える親子に臨床を通して返し、若者の自立を促すとともに、親子の改善を図らなければならない。

## 行政のあるべき姿

行政への注文は二つである。

ひとつは、不登校・ひきこもり・ニート等、困難を抱える問題は当事者としての本人及び親のだけの責任と捉えず、国の作り方の問題でもあり、日本社会が作り出した社会問題として捉えるべきであり、息の長い継続的な支援を行わないと、問題の根っこは解決しない。

これらの問題の背景にある受験教育も、共通試験の頃から起こった問題である。その問題は、すでに50年近く経過し、国民の思考にまで影響している根深い問題になっている。一朝一石に解決できる問題ではない。政府と国民の意識改革まで求められる大きな課題である。

ふたつ目は、行政はシステムをつくることができるが、ワンストップサービスを含め、中身の問題、つまり、相談者、ケースワーカー、訪問支援員の質の向上のための研修や支援者の育成をどう充実させるか、大きな課題を残している。それは、ひきこもりを対応できる専門家とスーパーバイザーをどう育て上げるかという課題でもある。

研修も学会の利益主義になり資格取得を優先して、形式的には成立しているが、現場では使えない有資格者が多い。また、その有資格者は、自分の仕事を限りなく狭くし、この問題は私の専門外ですから、他の専門家に任せてくださいと、私からみれば、逃げ口上ばかり言う人が多い。なんのために、専門の仕事をしているのか、専門の仕事とは、関連領域を狭めるものではなく、専門領域をいかに広め、真の専門家になるように努力することがその役割である。しかし、現実には首をヒネルことが多い。これでは、国がめざす、ワンストップサービスなど夢物語であるのではないかと思う。

## 合宿論

NPO 法人教育研究所 宇奈月自立塾寮長・にいかわ若者サポートステーション統括 牟田光生

今年で宇奈月自立塾（旧若者自立塾 宇奈月寮）も開所 10 周年を迎えます。

それらの手記を書こうと思っていたのですが、サポステも若者自立塾も年度で計算する為、新年が明けた、年度初頭（4月）に宇奈月自立塾の10年を書こうと思います。

今回のテーマですが、何故合宿が有効なのか？有効なのだが何故集まらないか？を書いていきたいと思います。

まず、現在宇奈月自立塾で生活している人々の年齢（スタッフ除く）は16歳～52歳までいます。20代6人、30代5人、10代1人、50代2人の計14名で生活しております。様々な年齢層の人が生活していますが、やはりメインは20～39歳です。

現在宇奈月自立塾では富山県の委託事業「生活保護者の為の居場所作り事業」を行っています。稼働年齢（15歳～59歳まで）の人たちも対象となるから50代の人もあります。現在宇奈月自立塾のベテラン料理人も50代で元々はこの事業で入塾した人でしたが、今は皆のために美味しい食事を作ってくれています。それら40代以上の人は、合宿生活＝面白のではないかととらえている点です。しかし、若者の場合はそうはいきません。

それら40代以上の人たちもいきなり生活保護になったわけではありません。様々な職種の経験があり、リーマン・ショック等社会変動がおき状況が大きく変わり、何らかの不運・不幸に見舞われて生活保護に陥ってしまいました。様々な事情で、個人で仕事に就いたりする事が難しくなり、我々の支援の元でもう一度人生を取り戻したという次第のようです。ちなみにこの事業で宇奈月自立塾入塾者は、今まで100%生活保護を脱却しております。

いわゆる、40代の方は元々社会で働き社会的自立をしていて、自分の居場所があったのですが、リーマン・ショックだったり、長期化した不況とデフレに翻弄され、職場で居場所を失い孤立化し、生活保護になってしまった、というのが現状です。

マズローの欲求5段階説と言う心理学では有名な説があります。

細かいことは省きますが、その内容は、人間の欲求には5段階あると説きます。

最初1Fは生理的欲求、

2Fは安全の欲求、

3Fに帰属・所属、

の欲求という欲求があります。

人間は、何かに所属・帰属していきたい欲求がある、意識無意識に関わらず。

4Fはその所属・帰属した組織の中で承認・認められたいという欲求であり、

最上階の5Fは自己実現の欲求があります。なお、3F以降は社会性での欲求です。

40代で宇奈月自立塾に入塾した方はちゃんと社会に出て、3, 4Fの欲求を満たしていたのです。それらが何らかの形で会社を解雇なりで退職し、孤立化してしまい、その孤立化した中で社会復帰どころか自暴自棄になり、アルコール依存に陥ってしまった等のケースがあり「生活保護者の為の居場所作り事

業」でもう一度宇奈月自立塾に所属し(3F)、生活を経て体力の取り戻しや経験の確認、日常生活やプログラムでのグループワークを行い、自信の回復と皆からの承認の欲求(4F)を経てもう一度社会参加する。

そのまま残って塾で働いている人たちも孤立化し1人で居るよりも共同生活で帰るところ待っている人がいる所が良い(3F)欲求は常に満たされているというようです。3Fや4Fの欲求を満たされるのを知っているが故に、人間関係の良さを知っている部分があります。勿論、本人達はマズローの欲求5段階説等知らないでしょうが、当てはめるとそうなります。

では、若者はどうでしょうか？

若者で3Fの欲求や4Fの欲求を知っている経験・体感した事のある者と無いものでかなりの違いがあります。特に大半は3Fの欲求は何となく所属(学校等に)していたものの、4Fまで至らなかった者がほとんどです。

宇奈月自立塾に来た40代以降の人たちはリアル(現実)のみですが、若者はそうではありません(ネット社会を知っている)。

リアル(現実)で満たされなくでも、ネットではSNSや掲示板等があり、SNSはリアル(現実)の関わりと相互していますが、掲示板でスレッドを作り不特定多数の反応を見る、ヤフー知恵袋等書きこむ、TVやラジオにツイッター含め投稿する等も現代風の3F・4Fの満たされ方になります。が、意見が認められなかったり炎上したりは対岸の火事なため、リアル(現実)感は伴いません。要は脳では何となく満たされ感があってもリアル(現実)な努力・体感・経験ではない為、ネットの顔の見えない住人同士の繋がりでしかない。稀に外に出る要因になっても本来の3F・4Fの欲求の満たされ方ではありません。

3F・4Fの欲求の満たされ方を知らないが故に、また、学校等で傷つけられた故に、それらを恐怖的に感じる人も居ますし、(これらは従来の不登校等)めんどくさい・かったるい等現代うつ系や無気力の人もおります。新しい事に飛び込むのは怖い事です。

怖い思いをするよりか今が安全で、楽であればよい、ということもあるでしょう。他にもネットの問題や個人の自由の問題等ありますが、3F・4Fが満たされて居なかった分、知らない・新しい・しんどそうな事をするより、現状を維持したい気持ちが働くのだと考えられます。(2Fから3Fに移行できない)

宇奈月自立塾やサポステには余り相談に来ないマイルドヤンキーの人達こそまさに地元コミュニティの中で3F・4Fの欲求があるから地元が居心地の良い場所なのです。

宇奈月自立塾に来る人達は孤立化の進んだ孤立者であり、マイルドヤンキー地元コミュニティからはあぶれてしまった人達がほとんどです。宇奈月自立塾は生活の場でもあるので、プログラム以外にも日々のグループワーク(ご飯を作る、食器を片づける、共同部分の掃除、雪かき等)で関係が作りやすく、自分の居場所3Fや4Fの欲求が自然と出来るようになっていきます。

今宇奈月で働いているスタッフの2名が元OBです。自分の居場所3Fだけでなく自分の行動・努力により役割もこなし認められ4Fの欲求に繋がっていき、最後に就職と言う形で5F自己実現の欲求を満たす、しかし、そこがゴールではなく、自分の人生の為に永遠5Fの欲求を探し続ける、そこは迷ってしかたなしに行きつくのではなく、自分で人生を探求するエネルギーになっていくのではないのでしょうか？

その濃密さが合宿型の支援と通所型の支援で差がでます。スタッフも一緒に生活しながら苦楽を共にし、自然な形で3Fや4Fの欲求が満たされるからです。

通所施設の場合プログラムを通じて、成長を促します。その点、相談・カウンセリングのみだと、個人での4Fの欲求の満たされ方はあっても、色々な人からの承認にはならず、そもそも相談・カウンセリングの趣旨が違ってきます。

宇奈月自立塾開所から10年。

私は合宿経験こそ豊富でしたが、学問的なものは素人で始めました。いまでも付け焼刃ですが、なんとか10年やってきました。社会参加への方法論として、今回の事を一若者(37歳で微妙ですが…)として考えてきました。日本の学校教育や家庭の価値観はどうしても22歳(大学卒業時)で最高のスタートが切れるように設計されがちです。人生80年あるのに…です。22歳で輝けなくても30代40代で輝けば良い、いつか輝くために今があるのですから。

そんな10年間でした。今後の合宿支援の形はどうなっていくのか正直見えにくい部分があります。ただ、人間の本能的な部分で合宿訓練というのは非常に有効な手段であります。

次回から宇奈月自立塾の開所からを振り返り個人的な目線(公的な部分は過去の教研通信等にあるので)で書いていきたいと思えます。

---

## 牟田武生理事長のプログラム等ご案内

---

### ① カウンセリング

横浜では土、日を中心に行っております。要予約、電話またはメールでお問い合わせください。

1時間 15,000円(会員10,000円)、1時間半 18,000円(会員13,000円)。

富山では月1回、宇奈月自立塾(宇奈月温泉)で行っております。料金は横浜と同じです。

また、全国各地で行われる講演や研修の際に不定期に行っております。

メール相談は会員のみ。原則無料ですが、ご寄付お願いいたします。

詳しくはお問い合わせください。

### ② 講演

教育委員会・児童民生委員・親の会・私立学校連合会・PTA・福祉関係等、様々なところで研修・講演も行っております。また、マスコミ関係の研修・番組企画・企画相談等も行っております。研修会の企画立案、コーディネートもご相談ください。(有料)

### ③ 留学&海外遊学・就労の会

#### 価値観を変える海外旅行の会(自分探しの旅、認知行動療法の応用)

原則として、毎月第1日曜日午前10時~12時、横浜事務所で費用1回3,000円(平成27年4月より)。

①文化交流は価値観を変えるか ②具体的に留学や遊学とは ③海外で自立して働くには  
全て、要予約です。予約は横浜事務所に電話でご連絡下さい。

勉強会は「講義」「情報交流会」「どう対応したら良いか」の構成で行います。



### ④ ネット依存からの克服の会

原則として、毎月第1日曜日午前10時~12時、横浜事務所で費用1回3,000円。

①ネット依存とは何か ②ネットゲームに陥る心理 ③脱出するにはどうするか  
全て、要予約です。予約は横浜事務所に電話でご連絡下さい。

勉強会は「講義」「情報交流会」「どう対応したら良いか」の構成で行います。

### ⑤ 宇奈月温泉で

カウンセリングやアウトリーチの他に、当事者・若者短期合宿を行います。

詳しくは宇奈月自立塾にお尋ねください。

ゲストルーム等あり、宿泊も可能です。(会員割引あり)



---

## 会費納入のお知らせ

---

NPO 法人教育研究所は、皆さまの会費を運営資金の一部に利用させていただいています。内訳は会員通信費 40%、寄付 60%です。年会費は 1 口 5,000 円ですが、何口でも構いません。そして、年会費は会費をお支払いいただいた日から 1 年間有効です。継続を希望される方は、有効期限が切れる前に継続の会費を納めていただけるようお願いします。

横浜銀行 上永谷支店 (323) 普通 1442822

名義 特定非営利活動法人教育研究所 理事長 牟田武生

郵便振替 00230-9-112182 特定非営利活動法人 教育研究所

※ 同封の郵便振替用紙をご利用ください (手数料がかかりません)

※ 今年度から入金確認後、会員証を発行致します。

---

## 編集後記

---

「背番号 3 桁」～ぼく達も胴上げに参加してもいいんですか」竹書房 2004 年発売

私は、60 年来の阪神タイガースのファンである。最近、古本屋で、この本を見つけた。

ドラフトで指名されたが、芽が出ず、怪我や故障をして、ボールを投げられなくなった若者達はどんなっていくのか、ずっと気になっていた。

93 年、ドラフト 1 位、高卒で指名されながら、一軍実績なしで引退した。安達智次郎選手、左腕投手で 160 キロのストレートを投げた。幼児の時、小児がん「余命ひと月」と医師から宣告を受けた。20 年前、阪神淡路震災を受け、自宅は被災し、叔母をなくす。99 年現役引退し、打撃投手という裏方に回る。

そのような、若者が主人公になり綴られている、成功した選手や監督の本はたくさんあるが、人生訓としては、職業柄なのか、私にはあまり役立たない。しかし、この本は非常に役に立った名著である。

江本孟紀 (元阪神タイガース投手・参議院議員) は、「いい本だね。裏があって、初めて表があるんだから」と絶賛。江本氏とは、中越地震の際、新潟で応援講演をしたことを思い出した。(ム)

老人に対する予算が、削減され、その一部が、若者の自立支援に回される。老人達の目は厳しい。自立支援も本気でやり、納得できることをやらないと、叩かれるのは当たり前である。本気でスタッフ共々、同じ世代の若者のために、頑張る時が来たと思っている (光)